

A.日時： 2024 年 3 月 18 日（月） 16 時 00 分～20 時 00 時

B.場所： 建築会館および ZOOM によるオンライン会議

C.メンバー（下線は欠席者）：

（会長）高田毅士

（副会長）東 貞成、中村いづみ、年縄 巧

（担当理事）小林実央、高橋郁夫、山田岳峰、前川 晃、入江さやか、多幾山法子、皆川佳祐、阿部慶太、向井洋一、楠 浩一、中嶋唯貴、井上和真、高瀬裕也、小檜山雅之

（監事）永野正行、室野剛隆（出席スケジュール変更の為 3 月 20 日に当会の録画視聴にて確認）

オブザーバ出席：戸田薫子事務局長

D.議題および提出資料：

報告事項

- | | |
|-----------------------------------|----------|
| 1) 第 67 回理事会議事録（案）の確認（高橋理事） | 資料 68-01 |
| 2) 総務・会計部会、第 25 回拡大正副会長会議報告（高橋理事） | 資料 68-02 |
| 3) 会務報告（小林理事） | 資料 68-03 |
| 4) 会計報告（山田理事） | 資料 68-04 |
| 5) 広報部会からの報告（入江理事） | 資料 68-05 |
| 6) 情報コミュニケーション委員会からの報告（多幾山理事） | 資料 68-06 |
| 7) 会誌編集委員会からの報告（皆川理事） | 資料 68-07 |
| 8) 国際委員会、地震災害対応委員会からの報告（阿部理事） | 資料 68-08 |
| 9) 論文集編集委員会からの報告（向井理事） | 資料 68-09 |
| 10) 事業企画委員会（企画）からの報告（井上理事） | 資料 68-10 |
| 11) 16JEES 運営委員会からの報告（小檜山理事） | 資料 68-11 |
| 12) 2024 年度大会に関する報告（中嶋理事） | （報告なし） |
| 13) 将来構想委員会からの報告（東副会長） | 資料 68-13 |
| 14) メール審議（1 件）結果報告（小林理事） | 資料 68-14 |

議案

- | | |
|----------------------------------------------|----------|
| 第 1 号 入退会者・会費未納入者（高橋理事） | 資料 68-15 |
| 第 2 号 共催・後援・協賛等（高橋理事） | 資料 68-16 |
| 第 3 号 令和 6 年度事業計画（案）（高橋理事） | 資料 68-17 |
| 第 4 号 令和 5 年度収支見込と令和 6 年度収支予算書（案）（山田理事、前川理事） | 資料 68-18 |
| 第 5 号 今年度の表彰について | |
| (5-1) 功績賞（小林理事） | 資料 68-19 |
| (5-2) 功労賞（小林理事） | 同上 |
| (5-4) 論文賞（年縄副会長） | 資料 68-20 |
| (5-5) 論文奨励賞（向井理事） | 資料 68-21 |
| 第 6 号 大崎順彦賞について（高橋理事） | 資料 68-22 |
| 第 7 号 スペシャルアドバイザーの更新（高橋理事） | 資料 68-23 |
| 第 8 号 研究委員会の設置期間の延長について（年縄副会長） | 資料 68-31 |

第9号 委員の委嘱（小林理事）	資料 68-32
懇談事項	
1) 2024年社員総会について（小林理事）	資料 68-24
2) 令和5年度事業報告（案）について（小林理事）	資料 68-25
3) 新理事の候補者について（小林理事）	資料 68-26
4) 18WCEE 支援について（国際委員会、総務）	資料 68-27
5) 会員としての条件（退会勧告に該当する要件）の学会規約への追加案について （高橋理事）	資料 68-28
6) 今後の事務局体制について（事務局、総務）	資料 68-29
7) 今後の予定について（小林理事）	資料 68-30
8) 選挙管理委員会から連絡（山田理事）	資料 68-33

議題

報告事項

- 1) 第67回理事会議事録（案）の確認（高橋理事）
 - ・高橋理事より、資料 68-01 に基づいて、第67回理事会議事録案の説明があり、承認された。
 - ・戸田事務局長から、補正予算に関しては「承認された」ことを明記（追加）して欲しいとの要望があり、承認された。
- 2) 総務・会計部会、第25回拡大正副会長会議報告（高橋理事）
 - ・高橋理事より、資料 68-02 に基づいて、総務・会計部会および第25回拡大正副会長会議の報告があった。
 - ・高田会長から、能登半島地震への対応に関しては何かをやりたいと考えているとの発言があった。これに関連して、小林理事より、「地震被害調査関連学会連絡会から6学会に働きかける」ことが出発点になる（議事録 4.(2)4 番目の文章）との指摘があった。
 - ・年縄副会長から、3月4日に来日したフランス地震工学会(AFPS)への対応について補足説明があった。AFPSとは今後も交流を図っていくことになったとの説明があった。
 - ・高田会長から、18WCEEの能登半島地震に関する特別セッション開催の要望をメールで18WCEE事務局へ出したが反応がなく、開催は難しいとの説明があった。
- 3) 会務報告（小林理事）
 - ・小林理事より、資料 68-03 に基づいて、前回理事会以降の会務報告があった。
 - ・山田理事より、3月25日の防災学術連携体において本学会から高田会長が講演を行うことになったとの報告があった。小林理事より、今後開催される地震発生7ヶ月の報告会に関しても、学会として誰に講演を依頼するかを早めに準備しておいたほうがよいとの意見が出された。
 - ・高田会長から、今後、JAEEとしてどのような活動をしていくべきなのかは難しい課題であるとの意見が出された。
 - ・中村副会長から、地震発生後7ヶ月の報告会ではどのような報告がJAEEに期待されているのかとの質問が出され、山田理事が確認し、次回の理事会で議題に挙げることとなった。
- 4) 会計報告（山田理事）
 - ・山田理事より、資料 68-04 に基づいて、部会委員会別の会計報告があった。12月に承認された補正予算と収支見込みの金額がほぼ対応していること、今年度の事業活動の収入合計金額が46,310,851万円、支出合計金額が48,068,933円、差額金額が-1,570,115円で、補正に比べて赤字額が少なくなっていること、地震災害調査積立金から50万円取り崩して助成をしていること、公益

目的事業の会計を合計した金額は 6,380,279 円のマイナスとなっていて公益社団法人としての収支相償に問題がないことなどが報告された。

- ・戸田事務局長から、金額に関しては税理士の先生に相談した後に数字が変わるかも知れないこと、内閣府に予算案を3月末に提出することの説明があった。
- 5) 広報部会からの報告（入江理事）
 - ・入江理事より、資料 68-05 に基づいて、広報部会で行った「能登半島地震に関するメディア対応」、「日本地震工学会誌No.51 の記者クラブへの配布」に関する報告があった。
 - 6) 情報コミュニケーション委員会からの報告（多幾山理事）
 - ・多幾山理事より、資料 68-06 に基づいて、情報コミュニケーション委員会の活動について報告があった。1～3月号の JEES News の発行、4月末発行予定の NEWSLETTER38 号 (Vol. 13, No.1) の特集テーマ（地震によるリスクの概観－能登半島地震を受けて－）、WEB ウェブサイトのメンテナンス等の活動、会員システム・サーバーの運用等について説明があった。特集テーマは会誌との棲み分けを考え、なるべく若手に依頼をし、教科書的な内容を目指しているとの説明があった。
 - 7) 会誌編集委員会からの報告（皆川理事）
 - ・皆川理事より、資料 68-07 に基づいて、会誌編集委員会の活動について報告があった。発行済みの会誌第 51 号（2024 年 2 月末）、会誌第 52 号（2024 年 6 月末 発行予定）等の内容について説明があり、会誌第 52 号の特集テーマは変更し、「能登半島地震」を取り上げ、今後、複数号に渡るテーマとなるとの説明があった。
 - ・高田会長より、能登半島地震の報告だけでなく、次のアクションに繋がるようなことができるとよいとの意見が出された。これに対して、皆川理事から、今後はどうすべきかといった内容も盛り込んでもらうように執筆者へ依頼したいとの発言があった。
 - 8) 国際委員会、地震災害対応委員会からの報告（小林理事が資料を代読）
 - ・小林理事より、代読する形で資料 68-08 の説明があった。地震災害対応委員会では地震への対応（情報発信）について、国際委員会ではニュースレター英文記事、英文ダイジェスト版の作成・発行等の段取り、18WCEE 支援等について報告があった。
 - ・高田会長より、台湾の NCREE から、9 月 13、14 日に台北で開催される 1999 年 ChiChi 地震の 25 周年の記念イベントの招待講演の依頼があったことが紹介され、高田会長が参加する予定であるとの説明があった。
 - 9) 論文集編集委員会からの報告（向井理事）
 - ・向井理事より、資料 68-09 に基づいて、論文奨励賞候補者の推薦や会議の開催等の活動、論文集の編集状況および今後の予定等の活動について報告があった。論文集の通常号の投稿ペースが落ちていること、Vol. 24, No. 2 については欠番になる可能性があることなどの説明があった。
 - 10) 事業企画委員会（企画）からの報告（井上理事）
 - ・井上理事より、資料 68-10 に基づいて、事業企画委員会の活動について報告があった。淑徳与野高校への訪問、Eーディフェンス見学会に関する会誌第 51 号への掲載、横浜サイエンスフロンティア校 YSFH への出前授業の実施、5 月に実施する地震工学分野における DX に関する講習会・研究会について説明があった。
 - ・井上理事より、高田会長から YSFH との交流を継続して欲しいとの要望があったが、赤字事業なので整理が必要であること、DX に関する講習会では参加者がどのくらい集まるかが懸念事項であることなどの説明があった。また、出前授業は不特定多数を対象とするよりも対象を絞った方がよいとの意見が出された。

- ・井上理事より、出前事業に関しては、事業企画委員会の中で収支を満足するような形を検討中だが、広報費のような形で見てもらえるとありがたいとの意見が出され、これに関連して、入江理事から社会への還元という点で予算を考えればよいとの意見が出された。
 - ・中嶋理事から、北海道の一日防災学校に連絡した方がよいかとの質問があり、井上理事からはどこまでできるかは未知数であるとの回答があった。
 - ・中村副会長より、予算がどのくらい必要か、どのくらいか経費がかかったのかを示して欲しいとの要望があり、井上理事から、次回の理事会で報告するとの回答があった。
- 11) 16JEES 運営委員会からの報告（小檜山理事）
- ・小檜山理事より、16JEES 運営委員会について報告がなされた。16JEES の参加人数の修正を行ったとの説明があった。最終的な収支は 1,141,957 円で、このうちの 100 万円は 6 月に消費税として納税する予定であり、141,957 円が JEES の積立金として取り扱うことなどが説明され、収支決算に関して承認された。
 - ・小檜山理事から、JEES 特集号対応等のために金子あゆみさんを雇用し、論文受付業務などを既に行ってもらっていることなどの説明があった。
 - ・次回 JEES の委員長と幹事長を土木学会が選出することになっているが、3 月下旬に選出される予定であることが報告された。
- 12) 2024 年度大会に関する報告（中嶋理事）
- ・中嶋理事より、2025 年の大会実行委員長を千葉大学の丸山先生に引き受けてもらったことが報告され、年齢を遡って若手が後任を探すのは難しい状況にあること、大会の開催場所について事前に打ち合わせができるとよいことなどの意見が出された。
 - ・東副会長から、将来構想委員会でも大会実行委員会を常設として、継続的に業務を引き継げるようにする方がよいとの提案がなされていることが紹介された。
 - ・高田会長から、本年 12 月 4、5 日に開催される大会には参加できないとの説明があり、中嶋理事からはオンラインでも構わないので開会の挨拶をお願いしたいとの要望が出された。
 - ・年縄副会長が中心となって、大会実行委員会を常設委員会とする検討を行うこととなった。
- 13) 将来構想委員会からの報告（東副会長）
- ・東副会長より、将来構想委員会の提案に対して各委員会・部会の対応計画をまとめたこと、4 月の委員会でその内容の確認、9 月辺りに上半期の対応状況のレビュー、12 月に次年度計画に向けたレビューと各委員会・部会に向けた提案をしていきたいことなどの説明があった。各委員会・部会で対応できること、できないことを踏まえて進めて欲しいとの要望があった。
 - ・高田会長から、時期が来たら対応状況を確認して欲しいとの要望が出された。
- 14) メール審議（1 件）結果報告
- ・小林理事より、DX 講習会に関するメール審議が行われたことの報告があった。

議案

第 1 号 入退会者・会費未納入者（高橋理事）

- ・高橋理事より、資料 68-15 に基づいて、入退会者について説明があり、承認された。また、会費未納入者についての説明があった。
- ・会費未納入者については、まずは個人のつながりで会費納入を促し、そのことを事務局に報告することとし、催促が漏れた人に関しては事務局から連絡することとした。
- ・小檜山理事から、退会理由として気になるものがあるとの発言があり、高橋理事より理由をヒアリングして対応したいとの説明があった。

第2号 共催・後援・協賛等（高橋理事）

- ・高橋理事より、資料 68-16 に基づいて、共催・後援・協賛等について説明があり、承認された。

第3号 令和6年度事業計画（案）（高橋理事）

- ・高橋理事より、資料 6817 に基づいて、令和6年度事業計画（案）について説明があった。全体の事業計画案は基本的には各委員会・部会から出された計画に基づいて作成していること、大崎順彦賞の運用、地震学会との年次大会の共同開催の計画の継続を追加したことなどの説明があった。
- ・高田会長から、社会貢献として YSFH の出前授業に関する記述が欲しいこと、1. (1) の会長特別委員会についてはもう少し具体的な内容を、また、学会としてやらなければならないことなどを記述したいとの要望があり、高田会長、東副会長、総務理事などで相談して後日メール審議することとなった。

第4号 令和5年度収支見込と令和6年度収支予算書（案）（山田理事、前川理事）

- ・前川理事から、資料 68-18 に基づいて、令和5年度収支見込と令和6年度収支予算について説明があった。2023年に関しては、企画事業収入の減少、会員減による収入の減少で実質的には予算が減少していること、企画事業支出に関しては前年度並みであること、2024年度予算については繰越金が大幅に減ること等の説明があり、2024年度中に収益を上げる工夫、支出を減らす工夫をして欲しいとの要望があった。
- ・令和5年度収支見込と令和6年度収支予算に関しては承認された。

第5号 今年度の表彰について

- ・(5-1)(5-2) 小林理事から、資料 68-19 に基づき、功績賞3名、功労賞1名の候補者、およびその推薦者に関して説明があった。戸田事務局長から、推薦書に関しては4月の理事会に間に合うように揃える必要があるとの説明があった。
- ・(5-4) 年縄副会長から、資料 68-20 に基づき、論文賞2件の選考過程の説明があった。
- ・(5-5) 向井理事から、資料 68-21 に基づき、論文奨励賞2件の選考過程の説明があった。
- ・功績賞、功労賞、論文賞、論文奨励賞の候補について承認された。

第6号 大崎順彦賞について（高橋理事）

- ・高橋理事から、資料 68-22 に基づき、大崎順彦賞に関するこれまでの検討の経緯、賞の概要案、公募要項案、審査方法案等について説明があった。対象者を大学や研究機関に所属している人、対象物は研究・開発とすること、対象年齢を45歳以下とすることなど、賞の概要に関しては承認された。
- ・入江理事から、大崎総研、清水建設の意向に沿って、JAE 広報担当を交えた3者で早めに擦り合わせをした方がよいこと、プレス発表を記者会系的にする場合には国土交通省の記者クラブが適切ではないかということ、時期的には4月では準備時間が短すぎるのももう少し後の方がよいこと、若手を鼓舞する賞として価値のアピールが大切であること等のアドバイスがあった。
- ・中村理事より、推薦者が博士号を持っている必要性はないのではないかとの指摘があり、「博士号取得者もしくはそれ相当の人」を推薦者とすることとした。
- ・入江理事より、大崎順彦先生の経歴やポリシーについても記述するべきであるとの意見が出され、高橋理事の方で追記することとした。
- ・審査方法、分野横断を評価できる審査員の選定や他学会への広報の範囲や仕方について議論があった。
- ・高橋理事から、次回理事会には、賞の規約・細則案、審査の方法（審査員、審査項目等）の審議等を行う予定であることの説明があった。

第7号 スペシャルアドバイザーの更新（高橋理事）

- ・高橋理事より、資料 68-23 に基づいて、登録中のスペシャルアドバイザー（3月までの任期）に関して説明があり、4月からの登録が承認された。

第8号 研究委員会の設置期間の延長について（年縄副会長）

- ・年縄副会長より、資料 68-24 に基づいて、「地震による倒壊家屋からの救助訓練プログラムに関する研究委員会」に関して能登半島地震の発生に伴って3年間の延長の申請がなされたことの報告があった。
- ・東副会長からは3年間のまとめを行ってから3年間の延長を行うべきとの意見、中村副会長からは JAEE のシンポジウムなどを開催して報告するような形にすべきとの意見が出され、年縄副会長から小山先生にその旨連絡することになった。
- ・中村副会長より、資料 68-17 の令和6年度事業計画（案）において、p2の(2)の2)で「・・・能登半島地震における救助活動調査を実施することとそれを踏まえたプログラム提案が必要である」と考える。」の部分は計画内容としての表現に改めるべきであるとの意見が出された。
- ・小檜山理事より、研究予算に見合った成果が出ていることがわかる資料の提示が望まれるとの意見が出された。
- ・本件に関しては、これまでの研究成果のまとめ方や延長した場合の研究内容などを見直してもらい、次回理事会で延長に関して再審議することになった。

第9号 委員の委嘱（小林理事）

- ・小林理事より、資料 68-32 の委員会名簿に基づいて、津波荷重の研究委員会への松川先生の追加、16JEES 特集号に関する委員会メンバーについての説明があり、承認された。また、16JEES 特集号に関する委員会とは別に 16JEES の3つの OS の委員会も設立されているのでそれらも名簿に記載をすることとし、上記特集号委員会の次の欄にそれを記載する扱いとすることになった。

懇談事項

1) 2024年社員総会について（小林理事）

- ・小林理事より、資料 68-24 に基づいて、5月21日開催の社員総会の概要について説明があった。開催方式としては、オンライン+会場のハイブリッド開催とすること、タイムスケジュールに関しては昨年度の実績を踏まえて調整することなどの説明があった。

2) 令和5年度事業報告（案）について（小林理事）

- ・小林理事より、資料 68-25、資料 68-25-2 に基づいて、令和5年度(2023年度)事業報告について説明があった。高田会長より大崎順彦賞の設立について追記して欲しいとの要望が出された（事業計画の中）。
- ・令和5年度(2023年度)事業報告については、黄色のハッチ部分を中心に各委員会・部会で確認して欲しいとの依頼があった。

3) 新理事の候補者について（小林理事）

- ・小林理事より、資料 68-26 に基づいて、今年度理事会メンバーと今後の選考について説明があった。

4) 18WCEE 支援について（国際委員会、総務）

- ・小林理事より、資料 68-27 に基づいて、18WCEE のディナーの日時が確定したこと（7月2日）、招待状の発送等、作業が順調に進んでいることの報告があった。

5) 会員としての条件（退会勧告に該当する要件）の学会規約への追加案について（高橋理事）

- ・高橋理事より、資料 68-28 に基づいて、会員としての条件を学会規約に追加する件について説明

があり、他の学会の規約や倫理規定を見ても具体的な条件は記載しておらず、JAEE でも特に規約等の追加は行わずに事案が発生した時に個別に対応していきたいとの説明があった。

- 6) 今後の事務局体制について（事務局、総務）
 - ・小林理事から、資料 68-29 に基づいて、事務局として次期事務局長の交代について進めており、来年度に新旧の事務局長が重複して勤務する時期を設けて引継ぎを行う予定であるとの説明があった。
- 7) 今後の予定について（小林理事）
 - ・小林理事から、資料 68-30 に基づいて、今後の予定について説明があった。3月26日に内閣府に令和6年度事業計画を提出する必要があるため、事業計画に修正や追記等があれば、3月20日までに総務理事、事務局に連絡して欲しいこと、4月11日に 監事監査会を実施すること、部会・委員会の引き継ぎの準備を進めて欲しいことなどの説明があった。
- 8) 選挙管理委員会から連絡（山田理事）
 - ・山田理事から、資料 68-33 に基づいて、2024年度「会長候補・監事候補」選挙スケジュール（案）の説明があった。

次回予定：（第69回理事会）：2024年4月12日（月）16時～19時

以上 この議事録が正確であることを証します。

令和 年 月 日

議長 高田 毅 士